

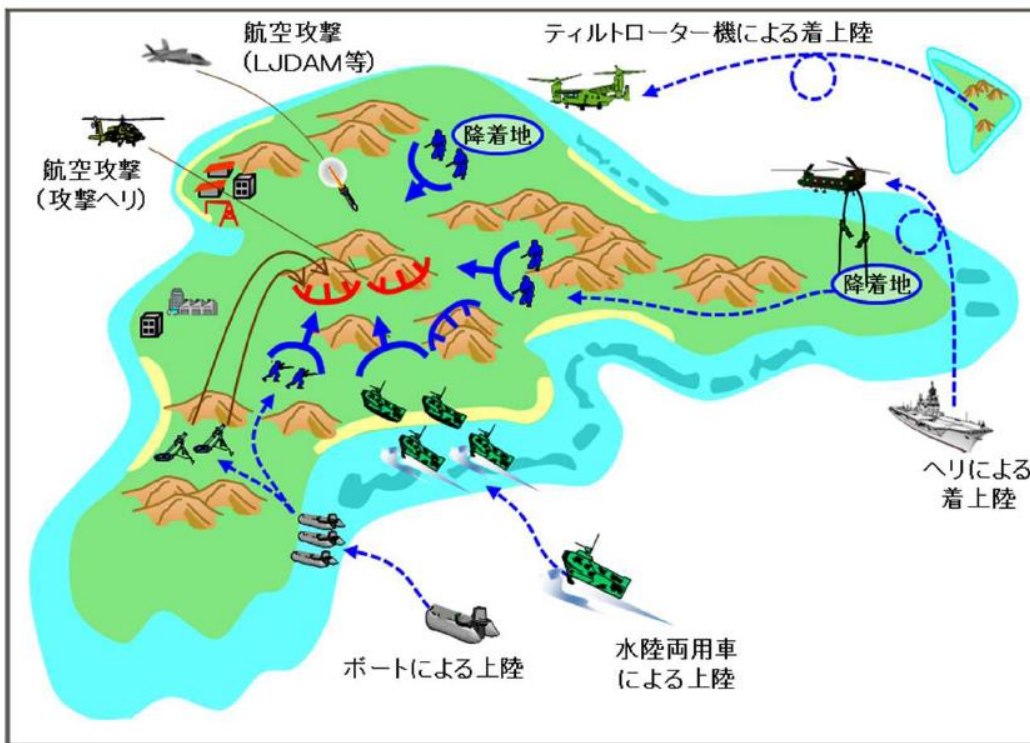
## 防衛省の「島嶼奪回図」 オスプレイは必ず石垣に飛んで来る

2017年1月6日 FB ページに投稿



これは、防衛省が佐賀県民向けに作ったパンフレットにある絵です。「島嶼防衛のイメージ」という題の、「佐賀空港に配備予定のオスプレイは、こういう目的のために使うんですよ」という説明図です。

### 島嶼防衛のイメージ



なるほど、陸上自衛隊のティルトローター機（オスプレイのこと）が描かれています。ということは、これは日本の島ですね。同じパンフには、「島嶼部への侵攻」などに対処するため、約3千人規模の「水陸機動団」を新設し、このような部隊を島嶼部に迅速に投入するためにオスプレイを導入すると書いています。そして、この「島嶼部」とは、「現在の防衛体制を大幅に強化」している

南西諸島の事です。

そうか、南西諸島の島か。防衛省のこの種の絵には珍しく、ビルや工場や民家らしいものも描かれています。人が住んでいる島ですね。そう言えば、何やら、屋良部半島と平久保半島を除いた石垣島のようにも見えます。

でも、変なのは、「島嶼防衛」というのに、自衛隊の船や航空機は、この島を「攻撃」していることです。仮に石垣島だと思えば、真喜良付近にボートで上陸した部隊は、無反動砲やライフルで隊形を整え、大浜あたりに上陸した水陸両用車は全速で北上しています。海上自衛隊のヘリコプター搭載護衛艦から発進したヘリや、佐賀から飛んできたオスプレイがホバリングして、ロープをつたって降下した部隊は、宮良川沿いや川原あたりで激しい地上戦を展開しています。航空自衛隊の戦闘攻撃機や攻撃ヘリは、LJDAM（精密誘導機能つき統合直接攻撃弾）などを使って、前勢岳やバナナ岳付近の相手方陣地を爆撃しています。

そうです。これは、「防衛」ではなく、いったん占領された島を取り返す「島嶼奪回」戦の絵なのです。防衛省が石垣市民の「事前質問」への回答で認めた、石垣島や宮古島での「島嶼防衛奪回方針」を描いたものです。こうなったとき、住民と観光客はどうなるのでしょうか？

<https://www.facebook.com/loveishigaki/posts/1017593741651731>

<https://www.facebook.com/loveishigaki/photos/a.953527301391709.1073741830.945461022198337/1074875419256896/?type=3>

陸自の基地ができれば、こういう戦闘のために、有事にはオスプレイが石垣島に飛んできます。となれば、平時から、訓練のために飛来しなければなりません。当然ですよ。

「基地ができれば必ずオスプレイは飛んでくる」というと、「エーッ、なぜ？」と思われるかもしれませんが、その答えは、「防衛省が言ってますから」です。

元のパンフは「陸上自衛隊の佐賀空港利用について」（2016年7月）です。

<http://www.mod.go.jp/rdb/kyushu/topics/159kawazoe/280729siryou.pdf>

「事前質問への防衛省の回答を読む」シリーズの一覧は、

<http://loveishigaki.jp/archive/FBposting/QandAseries.html>

をご覧ください。